

〔覽富士記〕橋もとの御とまり、今橋よちかくなり侍り、濱名のはしも此あたりにこそと申をき、
て、

暮わたる濱名のはしは霧こめて猶すゑとをし秋の河なみ

〔遠江國風土記傳濱名郡〕濱名橋二所

一所橋本、東福寺門前女屋下、一所猪鼻東、大崎與吳松中間、今亡焉。○中 按永正七年八月廿七日、

急波破橋、舉土塞湖口、自是以來無造營、古老曰、正保年間見橋柱、其跡爲田。○中 郷人曰、吳松與大崎

中間、渡海凡一里、今不知橋場、

〔宗長手記〕こ、○引を立て濱名の橋一歳の高汐より荒海恐ろしきわたりすとて、此度の旅行ま

こと何となく心細く物悲くて、

度々の濱名のはしもあはれなり、今こそわたりはてぬと思へば

〔東行別記〕濱名橋舊跡

荒井より西はしもと、いふ所にはまなの橋の舊跡有、いまはひかたとなりてまれる人まれな
り、

おもひやる心やながくかよふらんはまなのはしは跡たゆれども

〔遊囊賸記 二十〕濱名橋ハ湖口ヲ出ル濱名川ニ掛タリシ橋ナリトイフ、明應永正ノ湖變ヨリ跡ナ

クナリテ、今ハ濱名バカリヲ聞渡ルノミ、

〔都紀行 一〕陸月朔日、○文久四年中略、四今切の渡しの河邊にいたる、○中程なく船漕寄せて荒井の岸に上

り、關門を越て宿に出行に、濱名橋の舊跡を尋しに、今は橋本の名のみして絶たりと、里人のをし
へに過行、

〔羅山文集 六十一〕本朝地理志略 東海道十五箇國